

宮陵会報 2012.12

# Kyu-Ryo

No.95

発行責任者  
 社団法人 宮陵会  
 広報委員会

〒221-0802  
 横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
 神奈川大学内  
 TEL 045-481-5661  
 (内線 2451~3)  
 FAX 045-413-0791  
 印刷所 株式会社 江森印刷所



左から三浦千明さん、小林綾さん、小椋幸恵さん(H17年経済卒)。ゼミ仲間で毎年集合。年に1度食べて語って楽しい1日です。

なっかしい  
**師★友と**  
 第18回 **出会う**  
**ホームカミングデー**



西村猛さん、初音さんご夫妻(S62年機械卒)。育児に手がつかなくなり、久しぶりの参加。友だちに会えるのが楽しみです。



左から中島三千男学長、KU“東北”ボランティア駅伝統括責任者・石積勝副学長。



左から永峯暉夫さん妻の房子さん、狩野七郎宮陵会会長、柴田愛子さん(S30年経済卒)



うらた剛さん、熊本支部(S46年法律卒)。日頃歌のボランティアで活躍。会場で、すばらしい歌を披露してくれました。



左から楯山迪也さん、吉崎光男さん、清原基生さん、秋田琢次さん(S33年卒・三三会)これが終わって同窓会に移行します。



体育会応援指導部の皆さん。躍動感いっぱいの応援で、会場は熱気に包まれました。

母校と卒業生の絆を深め、師との語りを通じて、ネットワークを一層広げていただくことを目的とした恒例の「第18回神奈川大学ホームカミングデー」が10月21日(日)横浜キャンパス体育館で開催されました。好天にも恵まれ、大勢の参加者で賑わいました。終了後には、ゼミを中心とした21の同窓会が開催され、旧交をあたためました。来年はあなたのゼミ・クラブも同窓会を開催してみては!!

## Contents No.95

一般社団法人移行について	2・3
準会員ニュース	4
東京箱根間往復大学駅伝予選会応援記	5
6年ぶりの伊勢路疾走	6
書籍紹介・神大フェスタ・平塚祭報告	7
(学)神奈川大学伊藤文保理事長あいさつ	8

# 一般社団法人移行についてのお知らせ



## 一般社団法人移行に向けて 代議員選挙の立候補の 受付を行いました。

平成24年5月26日開催の通常総会において、一般社団法人移行後の代議員を選出する代議員選挙の実施について、ご承認を頂き、8月1日に本会ホームページに掲載並びに8月発送の会報に同封する形で、正会員の皆様にお知らせ申し上げます。

代議員選挙立候補の受付を平成24年10月1日から10月14日まで行い、頂きました立候補者並びに立候補者推薦届を代議員選挙管理委員会を開催し、審査致しました結果、以下のとおり決定致しました。

### 1. 代議員選挙候補者について

別紙、代議員選挙立候補者名簿のとおり、175名が被選挙権を満たしており、代議員選挙候補者に確定いたしました。

### 2. 代議員選挙の投票について

立候補者数が、定数180名に達しておりませんので、代議員選任規程第8条第2項により、立候補者全員の無投票当選が確定いたしました。

なお、代議員に欠員が生じておりますが、代議員選任規程第10条第1項により補充選挙は行いません。

### 3. 代議員選挙当選者の公示について

平成25年2月1日にホームページに掲載いたしますとともに、各候補者にご通知いたします。

なお、代議員の任期につきましては、代議員選任規程第4条第1項により一般社団法人移行日(平成25年4月1

日予定)から二年後に実施いたします、代議員選挙終了時(平成27年1月予定)までとなります。

### (参考)

一般社団法人神奈川大学宮陵会  
代議員選任規程  
第8条第2項

代議員候補者が定数を超えない場合は、投票を行わない。代議員候補者をもって当選者とする。

### 第10条第1項

代議員に欠員が生じた場合、代議員総数が定数の3分の2以上ある場合には、補充しない。

### 第4条第1項

代議員の任期は、定款第11条第5項により、選任の2年後に実施される代議員選挙終了の時までとする。

## 一般社団法人 移行認可申請について 答申が出されました。

平成24年5月26日開催の通常総会において、一般社団法人移行認可申請について、ご承認頂き、平成24年8月1日に神奈川県に一般社団法人移行認可申請を行いました。

その後、申請書類の記載内容の一部を修正した修正提出書を提出し、その後、神奈川県公益認定等審議会に諮問され、平成24年10月12日開催の神奈川県公益認定等審議会において、認可基準に適合すると認めるのが相当であるとの答申が出されました。

今後は、神奈川県より平成25年4月1日に一般社団法人に移行できるように、認可書を頂く予定です。

移行後は、一般社団法人神奈川大学宮陵会として、活動を行うこととなります。この間、会員の皆様には、移行準備に際し、様々なご協力、ご支援を頂き大変感謝申し上げます。

## 一般社団法人に 移行後の 宮陵会について。

### 1. 名称

一般社団法人神奈川大学宮陵会となります。

### 2. 会員種別

この法人の会員の種別及び資格は、以下のとおりとなります。

- (1) 正会員
  - イ 横浜専門学校を卒業した者
  - ロ 神奈川大学、同大学院及び神



奈川大学短期大学部を卒業した者  
(大学院博士後期課程単位取得後  
退学を含む。)

ハ イ及びロに掲げる学校に在学  
した者で理事会で入会を承認され  
た者

(2) 準会員 神奈川大学及び同大学  
院に在学する者

(3) 普通会员 正会員の資格を有する  
者のうちで会費未納中の者と所在  
不明の者等を普通会员とします。

(4) 賛助会員 この法人の目的に賛同  
して入会の申し込みをし、理事会  
で入会を承認された者

(5) 特別会員 学識経験者などで、理  
事会で推薦を受けた者

### 3. 社員総会 (総会)

現在の代議員会、総会に代わり社員  
総会 (総会) を年1回6月に開催しま  
す。臨時社員総会 (総会) は、必要に  
応じて随時開催します。

この社員とは、正会員から選出され  
た代議員とします。

### 4. 代議員制

本会では、「会費を納めた正会員の  
から社員を選出するための選挙を行  
い、当該選挙により選出された者を任  
期付の社員とする。」いわゆる代議員  
制を採用します。

### 5. 役員 (理事、監事)

(1) 理事、監事は、総会の決議によ  
って、社員 (代議員) の中から選出  
します。

移行後の最初の選出は、移行後最  
初の社員総会 (総会) となる平成25  
年6月に行います。

(2) 役員 (理事、監事) の任期は、選任後2年以内に

終了する事業年度のうち、最終の  
ものに関する定時総会の終結の時  
までとします。また、再任を妨げま  
せん。

### 6. 社員総会 (総会) での決議事項

従来代議員会、総会での決議事項で  
ありました事業計画、収支予算案は、  
理事会での決議事項になります。し  
たがって、社員総会 (総会) では、事業  
報告、収支決算報告の承認、その他定  
款ならびに法令に定める事項を決議  
します。

### 7. 支部の位置づけ

定款上には支部を位置づけず、独立  
した法人格 (人格なき社団) を異にす  
るものとして位置づけます。

全国各地で活動する会員組織 (支  
部) には、助成金を従来どおり交付し  
ます。

内容は、一般社団法人神奈川大学宮  
陵会地域組織活動助成金取扱規則に  
定めています。

## 秦野支部再建に向けて!

去る10月28日、湘南ひらつかキャンパス  
大学祭 (平塚祭) にあわせて、宮陵会秦野支  
部総会を開催しました。

秦野支部は、諸先輩方のご苦勞により設  
立されましたが、前支部長が「多忙となり、  
ここ暫くは大きな活動は行われておりませ  
んでした。

小田急小田原線秦野駅と湘南ひらつかキ  
ャンパスとは路線バスで結ばれており、大  
学行のバスが行き交う我が町、いわばお膝  
元での我々の活動は母校に対して何らか貢

## 本部だより

### ■新支部紹介

神奈川大学自動車工学研究部OB会支部  
秦野支部

しばらく活動を休止していましたが、10  
月28日再建支部総会が開催されました。

### ■新支部長紹介

協同電気支部 H 6 経 石田 浩一  
自動車工学研究部OB会支部 H 13 経 古矢 義彦

京滋支部 39 工 経 池田 靖宏  
写真研究部OB会支部 44 経 森脇 晟

兵庫支部 41 経 陸井 隆夫  
三重支部 48 機 本田 進

岐阜支部 35 機 砥上 忠久  
J F E 支部 43 経 宿岩 吉雄

秦野支部 38 法 北村 紀男  
石川支部 43 経 宮嶋 清明

神奈川区支部 47 法 春原正三郎

### ■訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

寺田 幹夫殿 (39 電) 平成24年5月14日  
前群馬東毛支部長

### ■叙勲

瑞宝双光章を受章されました。  
有川 貢司氏 (39 法) 春の叙勲

## 支部だより

### ◆今後の支部総会開催予定 平成25年

1月3日 (木) 香川支部総会  
平塚支部総会

1月19日 (土) 横浜北支部総会  
(支部創立5周年)  
島根支部総会

1月20日 (日) 茅ヶ崎・寒川支部総会  
2月24日 (日) 藤沢支部総会

6月8日 (土) 近畿ブロック会議  
和歌山支部総会

献できるのではないかと、熱意を一同した  
有志が集まり、支部再建に向けて動き出  
しました。

今までいくつかの支部再建を手掛けた宮  
陵会事務局からの助言をいただきながら、  
秦野支部再建委員会を立ち上げ、何度か打  
合せの機会を設けました。

神奈川大学、および横浜専門学校の卒業  
生のうちご連絡先をお届けいただいている  
諸先輩方は約840名いらっしゃり、宮陵  
会会誌に同封する方法で総会開催のご案内  
をさせていただきます。

秦野支部の当面の活動としては、湘南ひ  
らつかキャンパス大学祭 (平塚祭) における

宮陵会出展の支  
援、そして東京箱  
根間往復大学駅

伝競走では、国道  
1号線国府津駅  
前にて沿道応援  
を実施します。秦

野市在住在勤に  
かかわらず、是非  
とも卒業生諸先  
輩方々のご参加  
を宜しくお願  
い申し上げます。

(秦野支部)



# 準会員ニュース

## 水泳部

### 日本学生選手権 水泳競技大会で 女子総合5位に入賞!

9月7日(金)～9日(日)にかけて東京辰巳国際水泳場で開催された第88回日本学生選手権水泳競技大会において、本学水泳部が女子総合5位に入賞し、念願のシード



権を獲得した。この大会では、各種目の順位(得点)によって決定する総合成績で評価される。リレー種目では、400mリレーで2位、800mリレーで3位に入り、この種目で初めて表彰台に上がった。

また、個人種目では、久保木怜選手(人間科学部・4年)が女子200m背泳ぎで優勝、100m背泳ぎで3位、渡辺耶唯選手(人間科学部・2年)が200mバタフライで3位、さらに松尾美鈴選手(経済学部・1年)が400m個人メドレーで3位に入賞するなど好成績を収めた。

その他にも多くの選手が決勝に進出する活躍で、総合成績に貢献し、部員が一丸となつて獲得した順位となった。

来年度に開催される第89回日本学生選手権水泳競技大会のシード権を獲得した水泳部。今後のさらなる活躍に期待したい。

## 空手道部

### 金井隼人選手 国体3位入賞!

10月6日から10月8日にかけて行われた、第67回国民体育大会『ぎふ清流国体・空手道競技・成年男子・形の部』において、本学空手道部に所属する金井隼人選手(外国語学部・4年)が3位に入賞した。

空手には、突きや蹴りなどを相手に与え、ポイントを競う組手の部と形の部がある。形の部とは、一対一で演舞を行い、両者の技のキレやスピード、安定感によって評価し、勝敗を決定する。金井選手はこの形の部に

において、全国3位入賞を果たしたのだ。

金井選手の強さの秘訣は、空手経験者である父親との弛まぬ努力にある。空手を始めた小学生の頃は、近所の道場での練習を終えた後も、自宅に帰ってから父親との練習を欠かさなかったと言う。幼い頃から努力をする姿勢は変わっておらず、部活動と勉学を両立させるだけではなく、現在でも週に一度は幼い頃から通う道場で稽古を積んでいる。

今回の3位入賞について金井選手は、『未だにその実感が湧かないが、空手道部の仲間や友人から『おめでとう』と声を掛けられる度にその実感が徐々に湧いてくる』と語った。

また、一昨年に70周年を迎えた空手道部のOB・OGや全国の宮陵会員に向けては、『いつも応援ありがとうございます。自分が今回の成績を残せたのも、大学や空手道部があったから。次は、自分が先輩方に築いていただいた伝統を引き継いでいきたいと感じる。』との言葉をいただいた。

卒業をしても、空手は続けていきたいと語る金井選手の今後の活躍に期待したい。



## 本学学生の岡部功さん 「神奈川防犯シーガル隊 青パト隊」隊長として活躍する

本学法学部法律学科4年の岡部功さんが隊長を務める、「神奈川防犯シーガル隊青パト隊」が、全国初となる超小型電動車「日産ニューモビリティコンセプト」を使用した防犯パトロール活動を開始した。

神奈川防犯シーガル隊とは、神奈川県警により2010年に発足した若年層を中心とした有志による防犯団体で、「青パト隊」は、シーガル隊の下部組織にあたる。2011年2月より横浜市を中心に、青色回転灯を有するパトロールカーを用いた防犯パトロールを定期的に実施している。

中学時代からボランティア活動に興味のあった岡部さんは、大学2年次のときに「神奈川防犯シーガル隊」の一員としての活動を始めたが、継続的な活動が少ないと感じたため、自ら神奈川県警に「青パト隊」結成を申し出た。結成当時は、青パト隊の隊長として青色回転灯を自家用車に装備し、週2回ほど横浜市栄区や中区、鎌倉市などのパトロールをしていたが、この度、日産自動車より全国初となる超小型電動車の提供を受けた。これを見て、「大変ユニークなデザインで街中でも目を引き、それだけでなく地域の方に声をかけやすくなる。」と岡部さんは言う。

将来は、何かが起こってからでなく、犯罪を未然に防ぐ活動ができる警察官になりたいと夢を語る岡部さんの活躍に期待したい。



# 第 89 回 東京箱根間往復 大学駅伝競走予選会 応援記

宮陵会 体育振興委員会 委員  
平出 功

第89回東京箱根間往復大学駅伝競走箱根駅伝の本選出場権をかけた予選会が、平成24年10月20日(土)に行われました。今年は6年ぶりに全日本大学駅伝の出場権を獲得する等、着実に力を付けてきた本学陸上部。どの様なレースをしてくれるかと、期待と不安を持ってその日を迎えました。

コースは例年通り、陸上自衛隊立川駐屯地をスタートに、市街地を回り、国営昭和記念公園内をゴールとする20kmのコースで争われる。各校10〜12名の選手が走り、上位10人の合計タイムで6校が選出され、残る3校は5月に行われた関東インカレの成績をポイント化し、換算した時間を減算した成績で選出される。神大のインカレポイントによる減算時間は僅かに30秒。3分以上持っている大学もあり、是が非でも上位6校に入りたいところである。

昨年の雨の予選会とは打って変わって、今年は快晴微風の絶好のコンディションであった。朝は背筋がピンと張るような、凜と

した清々しい空気に包まれていました。朝7時頃に昭和記念公園の西立川口に着くと、既に大量の観衆を運び入れていた大学もあつたが、我々神大も入り口正面に場所を確保し準備を開始した。体育会本部の学生が約30本の幟、仮入場券、選手紹介の資料等を持って参集し、応援に来られる方々を迎える態勢を整える。

今年は応援ポイントを駐屯地内のスタート地点及び5km地点、市街地に出た6km地点及び10km地点の定点カメラ付近、昭和記念公園内の17km地点及びゴール前とした。各ポイントに人員や幟を事前に配するのだが、今年は学生課で、大学職員、体育会本部及びクラブ、神大フェスタ実行委員会の移動ルートやタイムスケジュールをまとめて頂き、事前準備をスムーズに行うことができた。

スタート1時間前の8時30分、応援指導部の応援が始まる。校歌に始まり、応援歌やチャリデーイング演舞で選手達にエールを送る。校歌に合わせて来場された方も多く、応援指導部の前は黒山の人だかりとなった。本学からは中島学長を筆頭に、役員、教職員、学生らが来場し、宮陵会からも役員、体育振興委員会、多数の会員の方々、さらに、翌日のホームカミングデー(横浜キャンパス)に絡めて遠方から駆けつけて頂いた方々も数多く足を運んで頂きました。

9時30分。スタートの号砲とともに、昨年より5校増えた参加45校529名の選手達が一齐に走り出す。直後から外国人選手を中心に先頭集団ができ、神大は2番手のグループ内で集団走。スタート地点と5km地点での応援が終わわり、17km地点への移動中、地方支部の方からテレビの情報が入る。5

km、10km地点のタイム順では10番手ぐらゐとのこと。不安と緊張が走るが、昨年と同様に後半勝負と信じて応援地点に向かう。

17km地点では学生課の職員や神大フェスタ実行委員会の学生達が既に待機しており、合流して選手を待ち構える。レースの先頭は日本大学の外国人選手が独走。次第に神大の選手達も姿を現し、通過するたびに大きな声援を送る。その後も大きく離されることなく、残りの選手も順次通過していく。その度に「神大、ファイター!」「ラストだ!頑張り!」の声が上がる。全選手の通過を見届けた後、成績発表が行われる。「みんなの原っぱ」へ移動すると、途中で再び速報が入り、10人目がゴールした順番は3番目であったとのこと。昨年は2番目で5位だったことを考えると、一抹の不安が募る。

「みんなの原っぱ」では陸上部を中心に、応援に来られた方々が輪になり、一団となつて発表を待つ。インカレポイントの併用になるか微妙なところとの情報があり、昨年のような楽観した雰囲気はない。そして、いよいよ発表が始まり、周囲が静まりかえる。1位日本体育大学、2位帝京大学と進み、その度に各所で歓声が上ががる。そして、レースタイムのみで選考される最後の1枠となった。

「第6位 神奈川大学 10時間11分27秒」  
大歓声が上ががり、笑顔がはじけた。皆一様に安堵の表情で、時に涙を流していた方もいた。成績発表が終わわり、中島学長や陸上部から応援に来られ

た方々に対して感謝の意と本選に向けての決意が述べられた。その後、応援指導部主導のもと、校歌を全員で歌い散会となった。

チームトップの選手から10番目の選手までのタイム差が1分16秒で、全員がしっかりとしたレースをして、無事に出場権を獲得することができた。出場選手も1、2年生が多く、まだまだのびしろのあるチームであり、今後に大いなる期待が持てるのではないだろうか。しかし、総合成績では昨年の2分半以上短縮したにもかかわらず順位が落ち、本選の常連校が予選を通過できない等、年々予選会のレベルが上がってきており、きちんと調整しないと予選通過もままならなくなっている。本選ではチーム一丸となり、持てる力をすべて出し切つて、是非ともシード権を獲得してほしいと思う。

最後に、来年もお正月に箱根駅伝で母校を応援することができます。宮陵会会員の皆様のお力を借りて、精一杯の応援をしていきたいと思しますので、宜しくお願致します。



力走する柏部選手と吉川選手 (提供: 神奈川大学)

# 6年ぶりの伊勢路 疾走!! 秩父宮賜杯 第41回全日本大学駅伝対校選手権大会

宮陵会 体育振興委員会 委員 平出 功

平成24年11月4日(日)

箱根駅伝予選会突破の興奮も冷めやらぬこの日、学生三大駅伝の一つである全日本大学駅伝対校選手権大会において、6年ぶりに神奈川大学のプラウドブルーの襷が伊勢路を駆け抜けた。

この全日本大学駅伝は関東の大学だけで行われる箱根駅伝とは異なり、昨年度大会で上位に入ったシード校と、全国各地で行われた選考会を通過した大学に、東海学連選抜を加えた26チームで争われ、学生駅伝日本一を決める大会として名を馳せている。本学陸上部は28回及び29回大会で連覇した実績を持つものの、近年は出場することも叶いませんでしたが、今年は6月に行われた関東地区選考会を総合4位の成績で、6年ぶりの出場権を勝ち取りました(詳細は宮陵会報第94号に掲載)。

全日本大学駅伝のコースは、愛知県名古屋市の熱田神宮西門前をスタートに、三重県伊勢市の伊勢神宮内宮宇治橋前をゴールとする106.8km。長短を組み合わせた8区間で、前半は小刻みなアップダウンが多く、後半は比較的フラットなコースとなっている。各区間と出場選手は次のとおり。

- 1区 熱田神宮～愛知県弥富市 14.6km 西山 凌平(1年)
- 2区 弥富市～三重県川越町 13.2km 我那覇和真(1年)
- 3区 川越町～四日市市 9.5km 柿原 聖哉(2年)
- 4区 四日市市～鈴鹿市 14.0km 小泉 和也(2年)
- 5区 鈴鹿市～津市 11.6km 吉川 了(4年)
- 6区 津市～松阪市 12.3km 柏部孝太郎(2年)

## 阿世知暢君(人間科学部24年卒・硬式野球部) 岩手の社会人野球でデビュー 岩手支部

阿世知暢君は昨年まで神奈川大学硬式野球部で活躍したことはご承知のとおり。5月ころ地元新聞に“関東自動車工業岩手工場(現、トヨタ自動車東日本岩手工場)野球部復活!”の見出しに主力メンバーとして投手・阿世知暢(神奈川大学卒)の登録記事が掲載されていた。

諸先輩のルートを辿って阿世知君と連絡が取れるようになり8月にチームとして公式試合がある事を知った。

早速、会員有志で「励ます会」を開催。北上市内の割烹で10人程集まり「交流会」を開催し公式戦デビューを激励した。

翌週の8月4日には八幡平球場で対盛岡大学戦があって4名で駆けつけ「宮陵旗」を掲げて声援を送った。応援の甲斐もあり、見事初勝利を収めた。試合終了後に阿世知君と話す機会があり、本人はケガで投げられずファーストを守っていた事。

また、何人かで投手・阿世知の活躍ぶりを観戦したいと思っている。 フレー! フレー! 阿世知!

文責 神奈川大学校友会岩手支部長 宮澤俊次(S48・経済卒)



備考:10月27日～30日まで「JABA岩手県アマチュア野球王座決定戦」が行われトヨタ自動車東日本は初優勝を飾った。阿世知君は準決勝で完投勝利して優勝の一役を担った。(岩手日報10月29日、30日抜粋記事参照)

- 7区 松阪市内 11.9km 井上 雄介(2年)
- 8区 松阪市～伊勢神宮 19.7km 鈴木 駿(4年)

8区間のうち6区間を下級生が占めるフレッシュな布陣で臨んだ神大。箱根駅伝予選会後の大後監督は、「久しぶりの全日本出場なので、全国大会の雰囲気をしっかり味わってほしい。せっかくもらったチャンスなので選手と一緒に楽しみたい」とコメントしていたが、それを体現するような配置である。

当日の応援は、沿道では宮陵会愛知みやも会支部及び三重支部が中心になって行われ、本学応援指導部はスタート地点及びゴール地点で声援を送りました。

我々は最初に、2区の途中にあり、三重支部が応援ポイントの一つとしている桑名の応援場所で応援することにしました。ホテルのテレビでスタートを確認してから出発。現地へ向かう途中、夜行バスで来たという卒業生ではない神大陸上部ファンの女性2人と遭遇するサプライズがあり、一緒に応援することとなった。また、遠路足を運んで頂いた方や、隣町に住んでいる卒業生らと共に桑名の応援ポイントへ。

そこですでに神大の幟が立てられ選手を迎え入れる準備ができていた。愛知みやも会支部の方から、第1中継所を14位で通過したとの一報が入る。しばらくして先頭が通過し、その後、選手達が次々と駆け抜ける中、神大は我那覇選手が10位で通過。順位を4つ上げる力走に、精一杯の声援を送る。全選手が通過した後、ゴールの伊勢神宮へと向かう。

伊勢神宮ではゴール手前の神宮会館前に応援指導部が陣取り、その向かい側で選手を迎えることにした。集団応援開始の定刻になると、まずは校歌。応援歌に続いて、チアリーディングのパフォーマンス。足を止めて見入っている観客の方も多く、嬉しい限りである。先頭のランナーが見えてからは、神大の選手が通過するまで校歌を歌い続け、その後は最終ランナーが通過するまで、皆で声援を送りました。レース後には、隣で応援していた名古屋大学の応援団とエールの交換をして健闘を讃え合いました。

結果は5時間23分23秒で10位。初優勝した時と遜色ないタイムというのが時の流れを感じさせますが、箱根駅伝予選会から僅か2週間後というレースでの力走を見て、今後への希望が一層膨らむものとなりました。今回のレースを良い経験として、これからもチーム一丸となり、箱根駅伝のシード権獲得へ向けて邁進していくことを期待します。

## 今年度定年退職になられる先生方

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| ●川田 昇 教授 法学部    | ●奥田 宏子 教授 外国語学部      |
| ●橋川 俊忠 教授 法学部   | ●松本 正勝 教授 理学部        |
| ●齋藤 靖夫 教授 法学部   | ●青木 勇 教授 工学部         |
| ●橋本 宏子 教授 法学部   | ●工藤 邦男 准教授 工学部       |
| ●池上 和夫 教授 経済学部  | ●熊倉 進 准教授 工学部        |
| ●大林 弘道 教授 経済学部  | ●品田 正昭 准教授 工学部       |
| ●中野 宏一 教授 経済学部  | ●白井 達也 教授 工学部        |
| ●海老澤栄一 教授 経営学部  | ●前森 健一 教授 工学部        |
| ●岩根 囀和 教授 外国語学部 | (学部順、五十音順に現在の子定者を掲載) |
| ●石井美樹子 教授 外国語学部 |                      |

以上の先生方が、今年度末定年をお迎えになります。

最終講義の情報は大学のホームページ

(<http://www.kanagawa-u.ac.jp/>) に掲載されますのでご覧ください。



力走する鈴木選手 (提供: 神奈川大学)

# 「大学生、ボランティアの櫛をつなぐ」 もうひとつの駅伝物語を出版

東日本大震災以後、本学学生は、なにを思い、大学はどう動いたか。

週2便のバス運行での参加者は1、400人を超えた、大学を挙げての被災地支援のプロジェクト。その1年の記録が、このほど出版されました。

項目は、はじめに本学副学長でKU、東北、ボランティア駅伝統括責任者の石積勝副学長からプロジェクトの狙いが示され、第1部では3・11以後の大学の動き、駅伝のスタート、文化振興支援と現地ボランティアの活動、遠野市との連携などが柱になって紹介されています。

第2部では、教職員、学生、OBが参加して感じたこと、今思うこと等がレポートされています。学生たちの感想は「励ましにいったはずの私が励まされた」「実際に来て見ると言葉にできない空気を肌で感じ、一生忘れられない経験になった」「この笑顔、優しさは、どこから来るんだろう。それを知りたくて、またボランティアに行くのかもしれない」等、行って見て感じたことが素直に表現されています。

今年2月に参加したOBの平能孝一宮陵会副会長は、ボランティア作業と現地で感じたことについて(本文から抜粋)こう述べられています。

初日、遠野市役所で、献本作業と文書再生に従事する。被災地の所蔵スクラップブックが津波で泥が付着したため、泥をブラッ

シングしながら、新聞記事の切り抜きを新たなブックに張り替えていく。記事に載っている人々の安否はどうだろうかと思いつつ作業をこなす。

2〜3日目は、全国から寄贈された図書の装丁前の検品とラベル貼りを行う。寄贈者が書き込んだものや、所有者名は、消しゴム等で除去してラベル貼付する。寄贈するなら、せめて書き込んだものは避けるべきと感じたところである。

街に出ると、丁度この時期はひな祭りの人形が飾られ、残雪の歩道から見る小さな春の催しは華やかであった。待ち遠しい春、被災された人々の地に一日も早く温かい春が来ることを願ってやまない。

●「大学生、ボランティアの櫛をつなぐ」  
もうひとつの駅伝物語

著者 神奈川大学東日本大震災被災地支援室(編)

A5判 240頁

発行 御茶の水書房

定価 1,890円



**神大フェスタ** 毎年恒例となった、神奈川大学横浜キャンパスの学園祭・神大フェスタが11月3日(土)・4日(日)に開催された。

学生団体である神大フェスタ実行委員会が中心となり、学生主体で行われる神大フェスタも14回目を迎え、恒例となった神大スター決定戦や3回目の実施となるミスター・ミス神大コンテストが行われ、大いに盛り上がった。更に、7号館前の通路や各講堂では、様々な出店や催しが見られ、神大生や横浜キャンパス近隣の方々だけにとどまらない多くの来場者で賑わいを見せた。また、2日目では、宮陵会学内支部が設置する卒業生コーナーにおいて、本学陸上競技部が出場した第44回全日本大学駅伝の中継が放映され、卒業生と多くの来場者が一体となってその成績に一喜一憂していた。

しかし、このような盛り上がりを見せた影には、一年前からこの2日間のために様々な準備を進めてきた神大生の姿があることを忘れてはならない。神大フェスタ実行委員会のスタッフ1人ひとりに改めて敬意を表したい。



## 第14回神大フェスタ 第24回平塚祭

# 開催される。

**平塚祭** 10月27日(土)・28日(日)の両日、湘南ひらつかキャンパスで第24回「平塚祭」が開催された。

平塚祭実行委員会によると、今回の平塚祭のテーマは、「祭りの原点に立ち返り、来場者や地域の方々、学生、教職員および協賛企業の方々に「平塚祭」を中心とした祭り本来の楽しさ、ワクワクする気持ちを味わってほしい」との想いの下、「祭」に決定した。

初日は天候にも恵まれ、夜には「花火大会」が無事実施された。また、2日目の午後には降雨となったが、最後の企画であるビンゴ大会に至るまで会場は大きな盛り上がりを見せた。

また、毎年恒例の「スタンプラリー」「綱引き大会」、園児や小学生を対象とした「子ども企画」に加え、新企画の「模擬店コンテスト」や大学祭の目玉企画である「ミス&ミスターコンテスト」などの各企画でも大変な盛り上がりとなった。

各日のイベントで、ある有名声優を招いての「声優ライブ」や有志団体による様々なパフォーマンス、ゼミ・研究室の展示・発表、サークルによる各種模擬店などでは老若男女を問わず、多くの来場者が楽しんでいる様子だった。

大成功をおさめた平塚祭に参加した来場者からは「楽しかった!」、「来年もまた来たい!!」という声が多く寄せられた。平塚祭実行委員会には次年度も来場者に「来て良かった」と楽しんでもらえるような大学祭作りを期待したい。



# ホームカミングデー 「やはり“きずな(絆)”

学校法人神奈川大学 伊藤文保理事長

皆様お健やかに過ごしのことと存じます。野会長はじめ全国の宮陵会役員、会員の皆さんには、日頃から母校のために、あたたかいご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。おかげで、本学の運営も当面のところ、総じては恙無く運ぶことができておりますことをご報告申し上げます。

まず、今年も宮陵会のご協賛のもとに18回目の「神奈川大学ホームカミングデー」(10月21日)を開催いたしました。当日は、全国から多数の支部長、役員の方々のご出席もいただき、一千人を超えるOB・OGをお迎えすることができました。奥様同伴で初めて出席されたという60歳年配の方や小さな子供連れでピクニック気分の若い卒業生、そして同期やゼミの仲間などが語らって、などなど。会場の方々に思い出話などに花が咲き、賑やかで寛いだ会場風景でありましたが、今年も、6年ぶりの「全日本大学

駅伝対校選手権大会」の出場や来年正月の箱根駅伝、出場が決まった翌日ということもあってか、いつになく、卒業生諸氏の高揚感も漂っていたように思いました。また、昨年は宮陵会札幌支部のコーラスグループ「サスピシャス・フロイデ」の出演をいただきましたが、今年も、熊本支部の皆さんがミニコンサートをご披露くださいました。宮陵会熊本支部の歌までご用意とは、恐れ入りました。

いずれにせよ、母校に思いを馳せてくださり、様々な方たちでホームカミングデーにご参加くださる卒業生が年ごとに増加していることは、本学を預かる私どもには大変心強いものがあります。改めてお礼申し上げます。

駅伝競技の襷渡り、東日本大震災、東北ボランティア駅伝の継承、校友との変らぬ交流、これらの



共通項は、やはり「絆」だと思います。断ち切り難い強い絆こそ、本学の基礎を支えるものと信じます。

さて、神奈川大学も創立から84年を経過し、卒業生もこの3月で、20万人を数えることになりました。この84年の間には、本学にとっても、戦中、戦後の価値観の大転換と混乱、学園紛争の苦渋、振幅の激しい経済環境、そして昨年の東日本大震災の惨状など、幾多の苦しみと方向の選択を迫られる事どもがありました。そして、いま大学運営は、少子化の到来必至の中で、戦後の教育のあり方と反省も含め、大きな岐路に差しかかっているように思えます。社会面、経済面、教育の世界、いずれを見渡しても誠に厳しい諸環境であります。その中においても「厳しい現実を目の当たりにしても、決して怯むことのなかつた先輩たちの姿を示しつつ、社会の中心を力強く担っていく人材の育成に努める」ことを念頭に置き、方向に誤りなきを期してまいる決意です。底ちからのある大学の要件、1. 教育、研究環境の充実、2. ゆるぎない経営基盤の確立、3. 卒業生、校友の結束力、だと思えます。

余談として、最近「課外活動」という表現は不適切、それ自体、教育としての重要な側面を持つものであるから、「正課外教育」が正確な位置づけ(中島学長、だそうで、私にも納得できます。神奈川大学の多様性と「教育力」向上の上からも、スポーツ・文化活動、そしてボランティア活動などへ引き続きバックアップしてまいります。

余談として、最近「課外活動」という表現は不適切、それ自体、教育としての重要な側面を持つものであるから、「正課外教育」が正確な位置づけ(中島学長、だそうで、私にも納得できます。神奈川大学の多様性と「教育力」向上の上からも、スポーツ・文化活動、そしてボランティア活動などへ引き続きバックアップしてまいります。

## 特別展

# 戦時下から復興へ 横浜専門学校 の学生たち

# 開催中!!



神奈川大学資料編纂室では、図書館展示ホールにて特別展を開催しています。昨年度開催の「草創期の横浜専門学校」に続き、神奈川大学の前身校・横浜専門学校の戦時下から復興までの過程を、学生たちの活動に焦点を当てながらたどります。

戦前期の学校において正課であった軍事教練、時局を象徴する学徒労働員と学徒出陣、終戦から学園再建への動き、そしてこの時期の学生生活の諸相など、あらためてご覧いただければ幸いです。

展示会場・日程は以下の通りです。

- 会場: 神奈川大学図書館展示ホール(横浜キャンパス)
  - 日程: 2012年10月1日(月)~2013年1月31日(木)
- 図書館開館時間に観覧できます。

開館時間・休館日等は神奈川大学図書館ホームページでカレンダーをご確認ください。

※なお、1月中は学年末試験のため図書館は一般利用ができません。ご観覧の際には受付で「特別展の観覧」とお申し出ください。